



第2730地区 鹿児島西ロータリークラブ

第2519回例会

10月は職業奉仕月間・米山月間

平成26年10月8日

●例会場 〒892-0828 鹿児島市金生町3番1号 山形屋1号館7階 社交室 毎週水曜日 12:30~13:30
●事務所 〒892-0828 鹿児島市金生町3番1号 山形屋1号館9階 ☎223-5902・FAX 223-7507

会長 鮫島 信一
幹事 七枝 敏洋
会報委員長 三木 武幸

本日の主要
プログラム

クラブフォーラム(職業奉仕)

- (1) ロータリーソング(我等の生業) (2) 会長あいさつ (3) ゲスト・ビジター紹介
(4) 会務報告 (5) 出席報告 (6) ニコニコBOX披露

会長挨拶 鮫島 信一

世界人権宣言

第一次世界大戦中(1914-1918年)の1918年(大正7年)、アメリカのウィルソン大統領は講和のための14か条の原則を発表し、その中で「民族自決」と「国際平和機構(国際連盟)」を提唱しました。「民族自決」とは、各民族が自らのことは自ら決定できるということで、民族の平等、人種の平等が前提とされるはずのものでありました。

そこで日本もこれに呼応し、第一次大戦の講和会議に全権団を派遣し、国際連盟委員会に対して人種平等案を提出したのです。それはいかなる国も人種や国籍の別を理由に法律上あるいは事実上何らの差別を設けないことを約束するというもので、今日から見れば当然の内容でした。しかし、植民地を支配する欧米諸国にとっては、はなはだ都合の悪い提案で、強硬な反対がありました。日本の粘り強い説得で、国際連盟委員会の最終票決は12対5の多数で人種平等案は支持票が多かったのですが、議長を務めたウィルソンは、「全会一致」の原則を盾に、これを否決するとの決定をくださったのです。

結局、ウィルソンが提唱した「民族自決」は欧米人(白人)の間にだけ適用され、黄色人種や黒人はその範疇には入らないという現実が暴露されたのです。そして更に欧米人によるアジアの植民地化は強化され、日本に対してもハルノートの提示へと強硬姿勢が続くことになりました。

人種の平等が国際社会の原則になったのは、日本が欧米列強によるアジアの植民地主義を破ろうとして戦った大東亜戦争終結後、3年経った1948年(昭和23年12月10日)、第3回国連総会で「世界人権宣言

として日の目を見ることが出来たのです。

空爆による日本内地の焼け野原化、更に原爆投下によって、日本は、「無条件降伏」というポツダム宣言を受諾することになりました。歴史は勝者によって書かれると言われておりますが、日本が世界に誇るべき人種差別撤廃への働きかけをしていた事実や貿易立国の日本に石油や鉄鉱石等資源の輸出を禁じる経済封鎖や海外資産の凍結を行った事実を隠し、ひたすらに軍部の独走を批判して、戦勝国の立場だけを美化したのが、東京裁判でありました。疑問のある方は、インターネットで検索すれば色々な史実が明らかにされています。

歴史書から日本の良さを削除してきた教育行政に対し、腹立たしい思いをしている爺児医であります。

詩吟

日本吟道学院

しろ やま にし どうせん
城 山 西 道仙

こくろふんどう かこみ やぶ かえ いちひゃく りてい るいへき あいだ
孤軍奮闘 困を破って還る 一百の里程 墨壁の間

わ けん すて お わ うまたお
吾が剣は己に折れ吾が馬斃る

しゅうふうほね うず こきょう やま
秋風骨を埋む故郷の山

肥後での戦いに敗れた薩摩軍が、漸く故郷の城山に帰ってきた。そうして刀折れ矢尽きて西郷隆盛以下が自刀する悲壮な最後を詠んだ叙事詩です。

◇前回の例会(10月1日)の報告

会 員 数	75 (68) 名
出 席 数	47 名
出 席 率	69.11 %

◇前々回の例会(9月17日)の訂正

出 席 率	57.14 %
訂正出席数	57 名
訂正出席率	81.42 %

前回の例会記録（10月1日分）

〈プログラム〉

「フィールドワークの経験をめぐって」
米山奨学生 熊華磊(ユウカライ)君

〈幹事ゲスト〉

○九州農林開発㈱ 代表取締役 寺田 賢司様
○米山奨学生 熊華磊君(奨学金授与)

〈ビジター〉

別海RC 加藤 泰行君
奄美RC 福永 健一君

〈会務報告〉

1. 10月のロータリーレートは1ドル106円となります。
2. 例会終了後、臨時理事会を開きます。



福永 健一君 (奄美RC)

西ロータリーの皆さん、こんにちは！ 今月は職業奉仕月間です。よろしく。今日は孫(城西高校)の野球の応援にきました。

鮫島 信一君

9月28日南国カントリークラブで親睦ゴルフコンペが挙行されました。15名のご参加をいただき、天候にも恵まれて楽しいゴルフができました。感謝してニコニコします。

山下 皓三君

先月、第2700地区職業奉仕研修セミナー(特別講師 田中作治元RI会長)に、当地区の福永さん(奄美RC)と出席し、すばらしい2日間を共にすることができました。

内村 二郎君

本日は米山奨学生のユウカライ君の卓話です。御静聴の程、よろしくお願いたします。

坂元 利郎君

先日の第一回鮫島杯親睦ゴルフで優勝しました。同僚者の方々と楽しくラウンドをさせていただいたおかげです。ありがとうございました。

小計 14,000円 累計 97,000円

ポリオプラス

【日本の役割 世界へのご恩返しとして】

1960年(昭和35年)という年は、安保反対デモで騒然たる世相と共に、ポリオ大流行の年として日本戦後史に刻まれています。小児麻痺と呼ばれたこの感染症の患者はこの年に、5,000人を超え1,300万人分の生ワクチンが緊急輸入されました。冷戦真っ只中の共産圏であるソ連から生ワクチンを調達することは当時としては思い切った決断でしたが、この世界で最初の3年間にわたる全国一斉投与が徹底的に実施され、患者数は1960年の6,500人から、1963年には100人以下となり、大成功をおさめました。そして1980年以後、日本ではポリオの発症が見られず、WHOに対しポリオ根絶を報告しました。この日本でのオペレーションは、後に、WHOによりポリオ根絶の世界戦略として採用されたのです。

私たちは、過去に日本でポリオという感染症が子ども達を「死と麻痺障害」で苦しめてきたという悲劇の歴史を知っています。既に日本では根絶されているため「ポリオは終わったのでは…」という声が聞かれますが、感染症という病気は、この世に常在国がある限り、移入感染の心配はなくなるのではありません。

国際ロータリーは「子どもたちとの約束」を果たすべく、主導パートナーである世界保健機構(WHO)、ユニセフ、米国疾病対策センター(CDC)、ゲイツ財団と共に休みなく頑張っています。

私たち日本人は、1945年の終戦後どうだったかなと思いでしてみませんか。あのころを思い出すと、世界中の国々から援助を受け、復興ができたはず。そのことを思い出しながら、私たちが「ご恩返し」をする番だと思います。

(第3ゾーン ポリオ撲滅コーディネーター 延原 正)

次週予告

10月22日(水) 12:30～ 山形屋
会員卓話 有馬 戦男君

※10月15日(水)は定款により休会となります。

市内RC例会プログラム

東RC 10月9日(木) 職場訪問のため川内原子力 山形屋
発電所に変更
10月16日(木) クラブフォーラム(CLPについて)

北RC 10月9日(木) 職場訪問のためオート レンブラント
パーツ伊地知に変更 鹿児島
10月16日(木) クラブ定款により休会

サザン
RC 10月9日(木) 会員卓話 東急イン
赤尾かおり君、坪井 良英君
10月16日(木) 職場訪問例会のため鹿児島
七ツ島ソーラー科学館に変更

鹿RC 10月10日(金) ゲスト卓話 山形屋
県警本部長 池田 克史様
10月17日(金) 職場訪問のため県警本部
交通指導課に変更

中央RC 10月13日(月) 祝日のため休会 山形屋
10月20日(月) クラブ協議会(地区大会報告)

東南RC 10月14日(火) 米山奨学生卓話 サロヤル
10月21日(火) 地区大会報告

城西RC 10月14日(火) 職場訪問のため自衛隊 東急イン
鹿児島地方協力本部へ変更
10月21日(火) クラブ協議会

南RC 10月15日(水) 職場訪問のため サロヤル
南日本新聞社に変更
10月22日(水) クラブ協議会

西南RC 10月15日(水) クラブフォーラム ゆうづき
10月22日(水) 18日(土)夜の例会に変更